



学校教育目標 「心身ともに健康な子どもの育成」～思いやりの心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成～ なかよく、かしこく、いきいきと

- ＜めざす子ども像＞
- 思いやりがあり、なかよく助け合う子ども
 - よく考え、自ら進んで学ぶ子ども
 - 健康で明るく、粘り強く実行できる子ども
- ＜めざす学校像＞
- 思いやり、やさしさにあふれる学校
 - どの子もめあてを持ち、活躍できる学校
 - 子どもの歓声が上がる、楽しい学校

- 運（１）公教育の場として、充実した教育活動が展開され、児童・保護者・地域の信頼にこたえる学校
- 営（２）職員一人一人がもてる力を発揮し、それぞれの役割を積極的に果たすとともに、調和のとれた教育活動が展開される学校
- 目（３）児童一人一人のよさを見出し、可能性を引き出す教育活動が展開され、全ての児童が安心して学校生活を送ることができる学校
- 標（４）時代の要請に応える、新しい学校教育の創造に挑んでいく学校

- ＜めざす教職員像＞
- 常に危機管理意識を持ち、子どもの力を伸ばすために努力を惜しまない、信頼される教職員
- 子どもに対する温かな愛情を持ち、一人一人を大切にする教職員
 - 子どもを伸ばすために、一時間一時間の授業を大切にする教職員
 - 子どもとともに汗を流し、時を守り、場を清め、礼を正す教職員
 - 自らの専門性、指導力の向上のため、常に研修に努める教職員
 - 教育公務員としての自覚を持ち、各種法令の遵守、学習指導要領の具現化を図る教職員
 - 時代の要請に応え、変化に柔軟に対応していく教職員
 - よりよい結果を求めて協働し、情熱と忍耐をもってあきらめずにやり抜く教職員

一人一人の子どもが、考えを持ち、考えを表現し、考えをもとに他者と協働する力の育成

本年度の重点

＜重点1＞ 子どもが学ぶ楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めていく教育活動	＜重点2＞ 子どもが安心感を感じ、自己肯定感を高めていく教育活動	＜重点3＞ 家庭・地域と連携し、包括的に子どもを育てていく教育活動
<p>【学習規律の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チャイムで始まり、チャイムで終わる。 ○最後まで相手（教師や友達）の話聞く。 ○正しい言葉づかいで教師も子どもも話す。（呼称は「さん」） （教室の言語環境の最重要ポイントは担任の言葉、読みやすく正しい文字、適切な音量で明瞭な発音、適切な言葉づかい等に細心の注意を払う） ○姿勢を正し、心を揃える。 ○学習道具を揃える。 <p>【学力向上・体力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中井小スクールプランを共有し、全職員で取り組む。 ○3年生以上の持ち合い授業の推進。 ○「学びの質を高める授業」づくり5つのポイントの徹底。 ○ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの融合。 ○ICTを活用した補充的な学習。（AIドリルを活用して、子どもの理解度に応じた指導の個別化を図り、学習内容の確実な定着を図る） ○家庭学習の充実。（自主学習の推進・時間のめやすを示す） ○子どもまわり学習塾の実施。（6月下旬より月・木実施、募集定員36名、指導員6名来校）4～6年生で実施） ○体育科学習を要とする運動好きな子どもの育成。個の課題に応じた取組。 ○読書活動の推進。（「身近に本、気軽に読書」が合言葉） ○NIE教育の推進。（新聞のよさを生かした特色ある授業づくり） <p>【中井スタンダードの授業づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「わかった!」「できた!」「やってみよう!」一人一人に達成感と充実感。 ○学ぶ目的。（一つ一つの教育活動のねらいを明確にして取り組む。何のために、何を目指して、そのために何を行うのか、整理して取り組む。） ○導入⇒めあての設定⇒自分で考える⇒みんなで考える⇒自分の考え⇒まとめ（MYまとめ）⇒振り返り ○学ぶ方法や考える道筋、到達目標、支援の手だて、内容習熟度まで個別化。 ○教師の問い返し、協働学びでの問いを精選し、一人一人が考える授業。（主体的、対話的で深い学び） ○教師が語らず、子どもが説明する授業。 ○一人一台GIGA端末を有効活用する授業研究。 <p>【特別支援教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての子どもに関わるという視点をもって教育する。 ○インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの具体を追究する。 ○保護者、児童に対して「特別支援教育」の理解を深める手だてを取る。 ○合理的配慮についての校内検討と共通理解。 ○子どもの小さな変容を見取り、褒めて伸ばす指導を行う。 	<p>【挨拶の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶は、「相手を大切にする」行為と価値づけ、教師がモデルとなる。 ○自分から挨拶をする指導。（友達に、先生に、地域の方に、来校者に） ○はっきりとした声で、相手の目を見て、止まって、一礼して、笑顔で、挨拶一言等、発達レベルに応じて。 ○時と場に応じる指導。 <p>【規範意識の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黙々掃除。（みんなが使う場所、学校を大切にする意識を育てる。誰が、どこを、どのように清掃するのか分かるようにする） ○揃える。（名札をつける。はきもの、机、いす、雑巾、足、持ち物「ランドセル、水筒、体操服、給食袋、プリント等」の置き場、動線、体の向き、心） ○廊下を歩く。静かに歩く。 ○みんなの物を大事に扱う。（GIGA端末、様々な備品） <p>【いじめは絶対に許さないという意識の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○些細なトラブルやふざけ合いも、対象者が嫌な気持ちになっている場合は、「いじめ」として積極的に認知する。 ○「ユニーク」と「ふざけ」の違いの指導。いじめは許さないという毅然とした指導を行う。 ○年間3回のアンケート実施。アンケートは3年間保管する。 ○子どもからの発案を引き出し、いじめ防止のための主体的な取組を行う。 ○道徳科や北九州子どもつながりプログラムの実施。 <p>【他者と関わり、知り合い、大切にしよう活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達のことや自分を取り巻く様々な人のことを知りたいという思いをもたせる活動を仕組む。 ○自分とは異なる考えや特性を認め、違うことの価値を実感できる学習活動を仕組む。 ○思いやりのある言動で誰かを助けたり、他者に配慮したり、折り合いをつけたりすることで得られる気持ちのよさや喜びを味わわせる。 ○対人スキルや心を育てる活動を工夫する。 <p>【人権感覚を育む人権教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体罰の禁止、言葉の暴力の禁止。 ○温かい言葉を教師も心がけ、子どもたちの言葉のよさを教師が価値付ける。（ありがとう、すごい、さすが、やるね、どうぞ、大丈夫など） <p>【キャリア教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じて「こんな自分になりたい」という夢や希望、目標をもつことができるようにしていく。（短期でも中、長期でも将来でも!） ○自分や友達の成長を実感できるよう、節目、節目で成長を確かめ、ともに喜び合えるようにする。（年間4回の「めあて（振り返り）シート」等への記録） 	<p>【新しい生活様式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における他者への配慮を指導する。（朝の健康チェック、手洗い、消毒、マスクの着用、3密を避ける、黙食、換気、友達の家に上がらない等） ○オンライン授業の併用。（オンライン授業は出席扱い。子どもの一つの居場所として捉える） <p>【危機管理の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題事象には、即日対応する。怪我や対人トラブルなどの保護者連絡は、連絡帳ではなく、電話、又は、家庭訪問で。（危機管理のさしすせそ） ○学年主任や管理職への「報告・連絡・相談」を徹底する。 ○子どもの頑張りのよさなど、学校生活の様子を保護者に積極的に伝える。 ○学校教育活動に関わる保護者への啓発。 <p>【シビックプライドの醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「持続可能な社会を築く」ことを柱として、SDGsの視点から、生活科や総合的な学習の時間を中心に、全教科等のカリキュラムをデザインする。（地域、環境、キャリア、国際理解、平和） ○中井の町→北九州市→国→世界と視野を広げながら、自分たちを取り巻く諸課題を解決する方法や、よりよい生き方を考える学習を展開する。 ○地域の人・もの・こととの触れ合いを通して、中井のまちや北九州市のよさを伝え、自分の住むまちに愛着をもつ子どもを育てる。 <p>【長欠・不登校対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業づくりや、集団づくりを通じた未然防止の取組 ・「北九州子どもつながりプログラム」 ・認知機能に視点を置いた「コグトレ」（子どもが自分の学び方を意識して自己評価を高め、状況に応じて活用できる力を見につけることができるようにする。学習面、社会面、身体面の3つから構成される。） ・学び（読み・書き）の土台づくりとしてのMIM ・SCやSSWとの連携 ○初期対応の取組 ・欠席理由を丁寧に聞き取り、保護者に寄り添った言葉かけを行う。 ・連続2日（不登校・無断）欠席した場合は、家庭訪問を行い、子どもや保護者との信頼関係づくりに努める。 ・校内に居場所をつくる。（オンライン授業も居場所。一人一人の状況に応じた支援を行い、全職員で対応する。ケース会議の適時実施。） ○学校外での居場所や学びの場との連携 ・教育支援室、オンライン支援室（5、6年）等との連携。 <p>【学校HP、一斉メールの有効活用】 ○できるものは紙からデジタルへ。</p> <p>【食育の推進】 ○給食を生かした食育指導を行う。※昼休みの確保</p> <p>【防災・減災教育】 ○安全な教室環境づくり、施設点検の実施。○下校時間の遵守。学年で揃える。忘れ物は取りに戻らない。</p>